

米への支出

・ 家計調査（二人以上の世帯）結果より ・

10月になり、新米が出回る季節となりました。そこで今回は、日本人の主食である米と、米に関連する品目の支出について、家計調査結果からみてみましょう。

減少傾向にある米への支出

食料全体及び米について、1世帯当たりの支出金額を価格の変動分を除き平成12年を100とした実質金額指数でみると、食料全体はわずかな減少傾向にあるなか、米はより大きく減少していることがわかります。平成19年では、12年のおよそ8割程度まで落ち込んでいます（図1）。

平成19年8月以降は米の購入数量が増加傾向

次に、平成17年1月～20年7月の米の1世帯当たり月別購入数量（注1）と消費者物価指数の推移をみると、19年8月以降、購入数量が増加傾向にあることがわかります。これは、生活必需品の価格が上昇する中、価格が上昇していない米は、他の品目に比べて値ごろ感があることなどから、購入数量が増加したと考えられます（図2）。

高齢の世帯ほど米への支出割合が高い

最後に、穀類全体への1世帯当たり年間支出金額に占める、米、パン、めん類及び他の穀類（注3）の割合を世帯主の年齢階級別にみると、世帯主の年齢が高くなるほど米の割合が多くなっています。一方、パンやめん類の割合は、世帯主の年齢が低いほど多くなる傾向がみられます（図3）。

このように、家計調査の結果をみることで、世帯の消費の構造や変化を把握することができます。

（注1）当月を含めた過去12か月間の平均値である。

（注2）支出品目のうち生活必需品に分類されるもの。

（注3）「他の穀類」には、小麦粉やもちなどが含まれる。

図1 食料及び米の実質金額指数の推移（平成12年～19年）

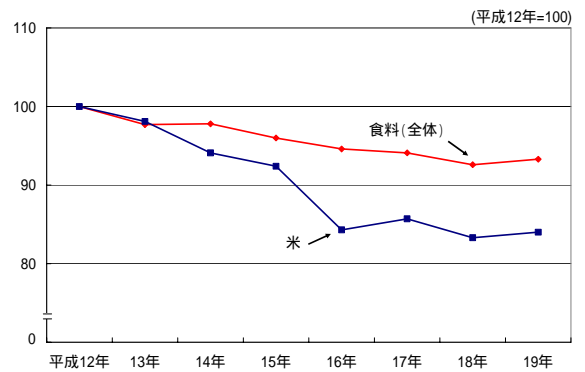


図2 米の月別購入数量と消費者物価指数の推移（平成17年1月～20年7月）

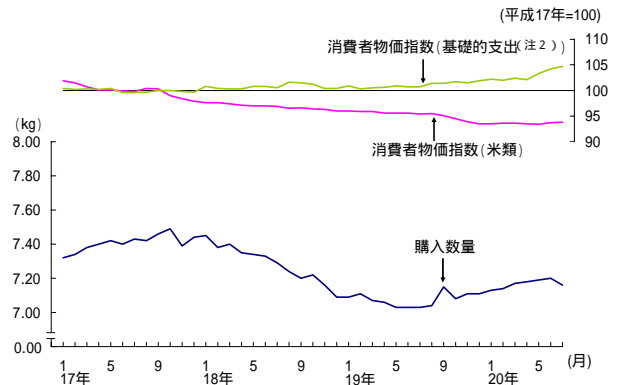


図3 世帯主の年齢階級別穀類の年間支出金額の構成比(平成19年)

